



# 東亜

*East Asia*

No.487

1 2008  
January  
月号

## 特集—オリンピック・イヤーの中国

北京オリンピックと中国環境問題 .....小柳 秀明  
観光から見た北京オリンピック .....鈴木 勝

### ON THE RECORD

五輪を超えて発展する中国経済の課題 .....関 志 雄

### ASIA STREAM

中国の動向 加茂 具樹 台湾の動向 中川 昌郎 朝鮮半島の動向 鴨下ひろみ

# East Asia 東亞 2008. 1



〈表紙のことは〉

2008年は言わずと知れた北京五輪イヤーである。真夏の8月8日から24日まで、まさにアスリートたちの「熱い戦い」が繰り広げられる。アジアでの夏季五輪の開催は64年の東京、88年のソウルに続くものだが、日本では東海道新幹線の開通や高速道路の整備など、五輪前後で社会生活に大きな変化が生まれ、韓国でも五輪前年に政治民主化が実現し、民主体制へ移行した。北京五輪は中国にどのような変化をもたらすのだろうか。写真は、天安門広場に臨む国家博物館前に設置されている巨大な五輪カウントダウンボード。(J)

(写真提供：野口東秀)

## C O N T E N T S

### ◆COMPASS

- 2 中露蜜月関係のたそがれ ..... 名越 健郎
- 4 二〇〇八年の中国経済：引き締めと構造転換 ..... 朱 炎
- 6 米国の相対化と「スマートパワー」論の台頭 ..... 神保 謙
- 8 ゆるやかな統合目指すASEAN ..... 吉野 文雄

### 特集 オリンピック・イヤーの中国

- 22 北京オリンピックと中国環境問題 ..... 小柳 秀明
- 36 観光から見た北京オリンピック ..... 鈴木 勝

### ON THE RECORD

- 10 五輪を超えて発展する中国経済の課題... 関 志 雄

### ◆ASIA STREAM

- 46 九年越しに来日を実現した深圳号  
[中国の動向] (2007年11月)... 加茂 具樹
- 58 住民投票の方式 [台湾の動向] (2007年11月) ..... 中川 昌郎
- 68 十年ぶり保守政権誕生へ—どう変わる韓国  
[朝鮮半島の動向] (2007年11月)... 鴨下ひろみ

### ◆オリンピック專欄 (1)

- 18 北京五輪と「和平演変」 ..... 王 征

### ◆インサイド・チャイナ (28)

- 77 四合院バブルと神戸牛 ..... 野口 東秀

### ◆Briefing Room

- 80 豪で与党敗北、十一年ぶり政権交代
- 81 創設四十年でASEAN憲章

### ◆CHINA SCOPE

- 82 中国伝統芸能研究と非文字文化 ..... 吉川 良和

### ◆チャイナ・ラビリンス (46)

- 84 新しい年の新しい指導メンバー ..... 高橋 博

### ◆連載

- 100 甲板からアジアを見る旅 (10)  
香港の小航路—国際都市を支える庶民の足 ..... 小牟田哲彦
- 19 New Publications on Asia

East Asia 東亞

2008年1月号  
発行=財団法人 霞山会  
〒107-0052  
東京都港区赤坂2-17-47  
赤坂霞山ビル  
phone: 03-5575-6301

特集「オリンピック・イヤーの中国」

# 観光から見た 北京オリンピック

大阪観光大学教授  
鈴木 勝

## はじめに

近年、中国の国際観光は活発な様相を呈している。具体的にいえば、訪中外国人旅行者（インバウンド観光）は、日本人を含めて全世界的に見てうなぎのぼりである。一方、中国人の世界へ向けての海外旅行（アウトバウンド観光）は、この倍率をさらに上回る勢いである。中国流に言えば、「出境旅遊熱がすなわち外国旅行ブームがアジアからヨーロッパや

オセアニアに拡大している。また、中国人による国内旅行に目を転ずれば、大都市から地方に拡大し、ますます盛んになりつつある。

さて、本稿の目的は、このように活況を呈している「中国観光」に対して、「北京オリンピック二〇〇八」がいかなる影響を与えるものであるかを考察しようとするものである。特に、インバウンド観光面では、この北京オリンピック期間中に、世界各国から多くの旅行者を迎え、ホテル、航空会社、旅行会社などの

観光産業は特需に近い形で、賑わいを呈することが予想される。

一般的に、オリンピックにおける効果は、短期的効果と中長期的効果に分類できそうである。当北京オリンピックに関して、中国のオリンピック準備委員会は「北京オリンピックによる経済効果は三十九兆円と試算し、北京市内の地下鉄の整備や、空港大規模拡張工事、空港と市内を結ぶ交通インフラの建設などが進められる」と発表した。また、観光上の効果として、「オリンピック期間中に、首

都北京へ外国人六十万人を含む約五百万人が訪問」と公表されている。このように短期的な効果に関してのニュースは種々に見られるものの、中長期的観点からの展望はあまり言及されていない。今次の北京オリンピック開催の観光上の効果如何を熟慮するにつれ、短期的効果以上に将来に向けての効果がより大きいのではないか、むしろ、終了後の中国観光により強い影響を与えるものではないかと考えるようになった。

ところで、いつぞや世界観光機関（UNWTO）は、二〇二〇年の中国に対して、「二億三千七百万人の外国観光客を迎える『受入国ナンバー1の国』になり、他方、世界に向けては旅行者一億人を出す『送出国ナンバー4の国』になるだろう」と予測した。中国は、現在、この読みどおり二十一世紀の「国際観光の牽引車」のポジションに向け、着実に進んでいるように見受けられる。しかしながら、世界経済フォーラムは、二〇〇七年三月に「世界観光競争力ランキング」において、かなり後位にある中国の現況を発表した。すなわち、当ランキングは、世界百二十四カ国／地域の観光・旅行の

## profile



すずき・まさる  
1945年生まれ。67年、早稲田大学卒。日本交通公社支店（JTB）入社。シドニー支店次長、北京事務所長、取締役アジア部長などを経て、98年JTBアジア取締役日本支社長。2000年4月、大阪明浄大学（現・大阪観光大学）助教授、02年より現職。専門は国際ツアーリズム振興論。近著に『観光大国 中国の未来』（同友館）などがある。

状況、政府・民間による観光への取り組み、その他の見地から、十三の指標をベースにして比較検討し、「現在、外国人受け入れ数が世界四位で、また二〇二〇年に第一位に予想ランキングされている中国は、『七十一位』である」とした。確かに、中国は外観的には、競争力として長所が多いが、弱点も少なくないことが指摘されている。どうやら、このランキングでは、今の観光国中国に対して、強い警告のメッセージが発せられているように思えてならない。

では、将来の中国観光に関してどのよ

うに考えるべきであろうか。こう考えた時、「北京オリンピック二〇〇八」を、二〇二〇年における「世界ナンバー1・観光国中国」への「跳躍台」として捉えるべきではないだろうかと思えてきた。すなわち、現在の観光上のマイナスマ面、とりわけ、「観光ソフト・インフラ」を中心とした欠陥を、この時期に完全に修正・補完するステップだということである。加えて、これまでの観光面での開発・振興は、北京、上海、広東省を中心とした沿岸地域、または内陸部の特定地域が中心とされてきたが、今回のオリンピックを機会に、中国全域に拡大浸透させる絶好のチャンスとし、文字通り、観光大国中国を形成する。

一方、外国人旅行者ばかりが話題になりがちだが、今後、中国人による観光全般の動きもますます活発になる可能性がある。中国人による国内旅行がオリンピックを契機として活発になることは疑いない。世界の人々の祭典を目の前にし、世界中の人々との接触の結果、世界を知った中国人はどのような変化をきたすであろうか。外国を経験したい意欲がさらに高まり、海外旅行を加速させる引き金に

なることは間違いない。このように考え  
た時、「北京オリンピック二〇〇八」は、  
中国観光史面から捉えると極めて重要な  
イベントであると思えてならない。

### 一、「北京オリンピック」の 観光的側面の現況

#### 一、ハード・インフラ面

##### 「競技施設」・「北京市内観光施設」

工事中の競技新会場は二〇〇七年には  
ほとんど完成するとの発表であったが、一  
部工事の遅れをきたし、年明けまでずれ  
込みそうであるとの発表があった。一方  
「北京市内観光施設」、特に、故宮などの  
世界遺産の模様替えは急ピッチで行われ  
ている。オリンピック年に訪れる多くの  
内外観光客に、故宮の最高のすばらしさ  
をということであるが、それにしても、  
五輪前年に訪れる観光客にはまことに  
粗末ということではない。

北京の下町の路地「胡同(フートン)」  
も道路建設や地下鉄工事の余波を受けて、  
昔を知る訪問者には失望感を誘うが、整  
備後の北京市内の景観を期待したいとい  
うのである。また、従来、悪評高かった中

る。とにかく、頑張ってもらわなければ  
ならない。

しかし、これらの六大非文明事項以上  
に重要なことは「観戦マナー」である。  
特にオリンピックという、スポーツ最大  
の祭典において、中国人のスポーツ観戦  
マナーはどうであろうか。スポーツを愛  
する中国人かどうか、テレビ画面で世  
界中に配信されるわけである。過去、日  
本が絡んだサッカー大会では、日本人選  
手の競技プレーに対するマナーは最低の  
ものであったし、直後の中国人サポーター  
の日本国大使館公用車への乱暴などがあ  
ったことが思い出される。五輪スタジアム  
建設や故宮などの観光地目玉の改修は不  
完全でも良い。世界からの大勢の観戦者  
が気持ちよく見られる雰囲気をつっ  
てほしいと思っている。中国人一人一人  
の意識の改革を願いたいと思っている。

#### 健康・衛生面

二〇〇三年のSARS  
以来、見連れるようになったのはこの面  
ではなからうか。一般市民の衛生意識の  
格段の向上である。市内の大きなショッ  
ピング・センター、デパート、大型商業  
施設では全ての出入口に手洗いのための  
設備が設置され、レストランでは調理人

国スタイル「トイレ」は四ツ星、三ツ星  
などの称号を付けられ見連れるように変  
化している。これら全般的なハード・イ  
ンフラ面に関しては、正直のところ、そ  
れほど心配していない。長年、北京に住  
みビジネスパートナーとして、中国人と  
仕事をしてきたが、各種施設建設の当初  
の契約や約束を違え外国人をいらさらさ  
せるもの、ぎりぎりのラインは忠実に  
守る国民である。たとえ、大幅に約束の  
日時は遅れようとも、開催日前日には完  
壁なまでに完成させる。中国人の頭にイ  
ンプリントされているのは、契約日でなく  
イベント開催日「前日」だと言ったら言  
いすぎであろうか。

#### 二、ソフト・インフラ面「各種」

中国および中国人にとって心配なのは、  
むしろこちらのソフト面ではなからうか。  
二〇〇八年の北京五輪の開催期間には、  
観光客数の増加と宿泊料の値上がりによ  
り旅行業には十分な量的な増加がもたら  
されるだろう。しかし、五輪期間のサー  
ビスのニーズと基準は現在の観光業界の  
水準やサービス水準にとって、発展のチャ  
ンスであるだけでなく、厳しい挑戦でも

や従業員はビニール製の手袋を使用、食  
事に使用する箸も中華料理独特な竹のも  
のから、ディスプレイな簡単なものに  
変わっている。四千年の食文化が一朝一  
夕には変えられないと考えるのが普通で  
あるが、この徹底した変化には驚かされ  
いかにSARSのもたらした脅威が大き  
かったかが判る反応である。

#### ガイド・通訳

中国の観光ガイドは「民  
間外交官」としての位置づけで捉えられ  
てきた経緯もあり、大学の外国語学部で  
の厳しい教育には定評がある。広大な国  
土、多様な民族と文化、悠久の歴史を有  
する中国への一般観光客は、かなりの中  
国通でない限り、北京の故宮、万里の長  
城、明の十三陵などの説明が不要とい  
う人はまれでガイドの説明が頼りである。

したがって、中国の旅行産業ではガイ  
ド教育は特に重要視されてきた。プロフェッ  
ショナルそして、ボランティアに関して  
は、中国人の心意気が、さまざまなイベ  
ントで十分に発揮されてきたことは、い  
ろいろなケースで見られる。ガイド・通  
訳などの調達は、中国・中国人がもつと  
も得意とする分野ではなからうか。完  
璧なまでにやっつてのける実力を持つて

ある。

北京市観光局の杜江局長は、北京の観  
光業のソフト面での実力を向上させ、業  
界全体の従業員のトレーニングを行うこ  
とが急務だとしている。たとえば、ホ  
テルの建設がオリンピックの想定人員を  
満たし十分であるといっても、肝心の  
はこの人員をコントロールするソフト面  
である。たとえば、政府関係、IOC関  
係、外国旅行会社など多岐にわたる予約  
ルートに対して、多様な価格の入り組ん  
だ体系の合間を縫って、「ダブル・ブッ  
キング(重複予約)」や「オーバー・ブッ  
キング(過剰予約)」を避けて、うまく  
コントロールできるであろうか。一方、  
多くの予約が舞い込んで、結果的に空  
き部屋が生じたりするケースが発生する  
ことも少なくないのではないかと懸念し  
ている。

「マナー」大声で騒ぐ」「タンを吐く」  
「所構わず、ごみを捨てる」「列に割り込  
む」「落書きをする」「だらしのない身なり  
をする」……これらは、「中国・六大非文  
明現象」というらしい。悪習をなくし中  
国の国際イメージをアップさせようと政  
府の掛け声が、現在、強力になされてい

いると言つてよい。

欲を言えば、その教育訓練や調達のプ  
ロセスがわかれば、外国人には精神衛生  
上、極めて良いのであるが。ただ言える  
ことは、今回のイベントは過去に経験をし  
たことのないものだけに、量は達して  
も「質」が付いてくるかどうかと心配を  
しているが、杞憂に終わればよいと考え  
ている。

#### 三、五輪「旅行ビジネス」の現況

オリンピックに絡む一般旅行ビジネス  
商戦としての現況はどうであろうか。具  
体的には、入場券、ホテル、航空会社、  
旅行会社などの対応はどうなのだろうか。  
北京からのニュース、JOC(日本オリ  
ンピック委員会)、日本国内の旅行会社  
からの時折のコメントが、一般紙、専門  
誌などで発表されている。北京オリンピッ  
クも近づきつつあり、一部競技の出場選  
手が決定したりし、確かに、ムードは上  
がりつつある。しかしながら、入場券割  
当枚数の少なさ、ホテル代高騰、中国に  
おける環境、食の安全問題などのマイナ  
ス要因が話題になり、中国に行つて観戦  
したいとの強い意欲を引き出すところま

表1 公式代理店8社の集客目標

		北京五輪の集客目標	アテネ五輪の集客実績	中国への年間送客数
J	B	6,000	3,000	81,000
T	N	7,000	3,250	36,000
K	T	3,000	800	19,600
日	本	1,500	-	158,000
阪	急	2,000(当初目標)	-	21,250
ANA	セールス	3,000	1,200	15,430
トップ	ツアー	3,000	1,040	20,000
西	鉄	3,000	-	10,000
西	武	3,000	-	
西	武	3,000	-	

注: 北京五輪の目標はチケット既得者の手配も含む。中国への送客数はJTB, KNT, 日本旅行, ANAセールスがパッケージツアー、トップツアーが団体旅行のもの。  
出所: 『トラベルジャーナル』2007年10月15日号。

でいていないのが現在の雰囲気である。ここで少しばかり、話題となっているオリンピック「旅行ビジネス」に関して述べてみたい。

入場券問題 一番の関心は入場券問題

である。今回、日本での取り扱いに関して、JOCは「公式旅行代理店」八社を次のような基準で選んだ。過去の旅行実績や中国への送客実績をもとに十三

日本人が活躍することが期待される競技や試合日程が確定している個人競技(柔道・水泳・体操など)に集中したのだろう。とにかく、いろいろな事情があるかもしれないが、二万七千枚は少ない数字である。ただ、配分枚数が少なかったのは日本だけでなく、世界各国共通の問題のようである。

旅行会社による北京オリンピック観戦ツアーの企画・造成 枚数が少ないとなれば、不特定多数、すなわち、パッケージツアー客用には枚数が行き渡らないのは当然である。このような場合には、各旅行会社は限定的な枚数を団体、たとえば、キャンセルの発生率が少ない、インセンティブ・ツアーやスポーツ団体などの固定グループに優先することなどが一般的に行われている。

確かに、個人客対象のパッケージツアー用には、チケット配布状況が十分に把握された後の企画・販売で、間に合うものである。特に、チケット入手関係ではトラブルがありそうな中国にあっては、十分注意することにしたい。パッケージツアーの有名ブランドである「ルックJTB」や「アイル」も現在のところ、

社を選択。②これらを対象に、二〇〇七年一月〜二〇〇八年十二月に日本人選手団が派遣される四つの国際総合競技大会の入場券を販売できる公式旅行代理店を募集するための説明会を開催(メインは北京オリンピックであるのは当然)。③北京オリンピックの観戦入場券割り当てや支オリソニックの観戦入場券割り当てや支私条件などの説明を受けた旅行会社は、JOCに対して「海外旅行取扱額」や「中国への年間送客人員」などの必要項目を記載して提出。④JOCとして、条件を満たす上位八社を代理店に選択(表1)した。

北京オリンピック開催まで一年を切った段階で、入場券割当に関するショッキングなニュースが流れた。「七月末、北京五輪組織委員会からJOCに示された日本向けの初割り当ては二万七千枚。隣国開催ということもあり、JOCは前回アテネの五万枚を大幅に上回る十四万枚を要望しているが、思いのほか少なかつた。北京五輪のチケットは中国国内向けが七五%を占め、日本以外の国も要望がなかなかかわらない状況という」、「この数字の少なさに驚いたのが、観戦ツアーを企画している旅行社だ。年末年始をめ

それぞれ企画造成されていないと専門誌は報じている。多分、オリンピック直前になれば、余剰のチケットが出てくることは間違いない。したがって、チケットに関して、逐一、中国現地ニュースを得ておくことが肝要である。

一方、注意すべきは、中国特有の「宴会時」における口約束は旅行会社にとり、命取りになることを肝に銘ずべきであろう。たとえば、ペーパー契約上であっても、「予約ミス」や「ダブル・ブッキング」などの事件が発生し、約束を反故にされたケースが過去のサッカー入場券で発生しているのであるから。

ホテル部屋数および料金 観戦時の観光客用宿泊施設に関して、北京市旅游局の言葉として「期間中、北京市内の宿泊施設は二十八万室、ベッドは五十七万人分確保している」と、「ベッド数は完全に需要を満たす水準にあるため、観光客は法外な値段で宿泊しなければならない状況を心配する必要はない」などが紹介されている。しかしながら、ホテルに関しては、平均的・計画的な観戦者があり、加えてプロによるホテル割当コントロールが十分うまくいっている話である。さら

どにツアーを発表する予定のJTBはチケットが入らないと非常に困ると困惑額だ」という内容である。

日本の旅行会社としては、前回のアテネ・オリンピックと比較して、オリンピック・ビジネスの期待は格段の違いがあつたと推測される。なぜならば、日中間の航空便数、北京でのホテル軒数、日本国民のオリンピックに寄せる期待度など、アテネとは大きな違いがあるからである。また、これらの旅行会社にとっては、北京オリンピックの二年後には、上海万博が控えており、旅行業界での中国ビジネスのシェアを拡大しておきたいとの思惑があることは十分、考えられる。

次にデスティネーションとしての中国はここ数年、うなぎのぼりで渡航者が急増し、日中間の航空便も日本各地から飛んでいるし、北京市内や近郊を加えれば、ホテルはかなりある。したがって、北京オリンピックを含んだ種々のツアーを作ろうと旅行会社は待た構えていたわけである。加えて、前回のアテネ大会は、抱き合わせ販売(欲しい入場券と強制的入場券)システムだったが、北京大会は、希望の入場券だけを購入できるとなれば、

にIIOC(国際オリンピック委員会)や中国特有の政府によるホテル割当などを考慮すると、かなりの余裕あるベッド数が存在しない環境下でのコントロールは至難を極めよう。

ところで、ホテル料金はどうかであろうか。オリンピック特需で高騰は当然であり、五輪期間の北京の一部ホテルの価格は、現在に比べて六〜十倍値上がりし、多くの観光客がしり込みするような超高級ホテルになるといふ。こうした状況について北京市旅游局長は「ホテルの部屋が短期的なニーズにより値上がりするのは、経済学的法則に基づいても正常なことだ」としている。しかし、ホテルのベッド数にしても、これらの高額な値段以上に問題なのが「完全ブロック制」、「料金前払いデポジットシステム」であるようだ。たとえば、大規模旅行会社であってもリスクの高いビジネスである。どうやら、入場券確保以上に、旅行会社にとっては種々のリスクが降りかかってきそうな状況にある。

二、「北京オリンピック」が中国の観光にもたらす効果

「経済的効果」

オリンピック効果に関して、中国国家统计局は次のように発表している(二〇〇一年)。「北京オリンピック開催が二〇〇八年まで中国にもたらすであろう経済効果は、毎年、中国のGDPが〇・三、四ポイント伸び、北京市のGDPが二、四ポイント伸び、毎年三十万人の雇用が創出され、北京オリンピック開催に伴い観光産業収入が何倍にも伸びるのである」ということです。(中略)北京オリンピックが成功すれば二千八百億円の投資による経済効果は計り知れないものとなるでしょう。

しかしながら、経済的効果に対してこのような意見もある。大和総研によれば、「北京五輪開催まであと一年となり」、北京市では盛大な祝賀行事が行われた。メディア各社は五輪特集を組んで祝賀ムードに花を添えたが、実際の投資効果に限れば、その効果は驚くほど小さい。投資金額自体が小さいのではない。中国全体

で五輪効果が震む程の巨額の投資が行われているのである。一部では、北京五輪後の中国経済の拡大ペースが大きくスローダウンすると懸念する向きがあるが、それが現実になると前提は、「五輪特需」の発生である。五輪向け投資は、その反動を懸念する程大きくはない。

同様な論調として、「このオリンピックが中国経済に及ぼす影響について野村証券金融経済研究所が試算を行った。それによると、二〇〇八年の中国の実質GDP(国内総生産)を押し上げる効果はわずか〇・二五ポイントにとどまるという。(中略)開催年の二〇〇八年には限定的な効果しかない。確かに、北京オリンピックに関する経済的効果は大きなものであるに違いないが、現在の中国全体の発展から推し量れば、部分的なものなのだろう。

二、短期的な経済効果を凌駕する、観光上の中長期的効果

観光ソフト・インフラ 冒頭に紹介した「二〇〇七年・旅行/観光競争力ランキング」における中国に対するコメントの中で、

信じている。

しかしながら、本文で言及した観光ソフト・インフラ面、特に「ホスピタリティ精神」は、北京オリンピックが決定した後の短期間では、到底、完成の域には達しない。正直言って、遅々として進まないものであり、最後まで決して手を抜かないでほしいと願っている。北京オリンピックが終了し、二〇一〇年の上海万博を経て合格の域に達しないのではないかとさえ思っている。しかしながら、歩みが遅くとも努力の成果は必ず出て来ると信じている。表2の二〇〇七年世界観光競争力ランキング順位ではかなり後塵

観光ソフト・インフラに関する遅れの記述が目立っている。「中国は七十一位である。世界遺産数では、世界三位、価格競争力では十一位であるが、ランキングを下げる多くの指標が存在する。まず、観光・旅行の進展を阻む要件、例えば、財産権の不十分な保護、外国人所有の制限、厳格なビザ制限などの政策環境の存在(九十七位)がある。伝統的な発展に力点を置かない環境面に関する規則(八十八位)もある。また、健康・衛生面(八十四位)に加えて、安全性・治安にも懸念がある(八十三位)」などが列記されている。

しかし、筆者として、もっともショックを受けるのは、「国民による観光上の意識」の指標が百二十/百二十四の順位であり、中でも一観光客への態度」が百十二位であること。改めて、UNWTO予測による「二〇二〇年には世界観光国ナンバー1」が思い出され、これらの問題を克服しない限り、そのポジションに到達できないであろうと考える。多くの世界遺産、航空・空港インフラ整備、ホテル宿泊設備増加など以上に、「ホスピタリティ精神」の養成は現在の中国におよ

を押しているが、二〇二〇年まで最新の四位から一歩一歩、上位に歩みを進めるであろうと信じている。

注

- 1 二〇〇四年九月十四日「司馬毅の中国マーケティング トウオッチ」。
- 2 News Letter VOL.7, 2007.8 「ル・アンド・アソシエイツ・ジャパン」
- 3 World Economic Forum タボス会議の主催団体。「二〇〇七年・旅行/観光競争力ランキング」(The Travel & Tourism Competitive-ness Ranking) Page.
- 4 「人民網日本語版」二〇〇七年七月二十四日。
- 5 「二〇〇七年八月三十日「朝日新聞」夕刊」。
- 6 「観光ウィークリー」二〇〇七年十月二十八日号。
- 7 News China 2007.10.31
- 8 「人民網日本語版」二〇〇七年七月二十四日。
- 9 「海外情報」二〇〇七年八月十日。
- 10 「北京五輪、中国経済押し上げの効果少ない」J-CAST ニュース二〇〇七年八月十二日。

参考文献

- 財・アジア太平洋観光交流センター「世界観光統計資料集二〇〇一―二〇〇五年版」APTEC(二〇〇七年)。
- 財・アジア太平洋観光交流センター、APTEC(一九九九年)「ツーリズム・ビジョン二〇一〇」APTEC鈴木勝・国松博「観光大国 中国の未来」同友館、二〇〇六年。http://memory.a.jp/rankings/eiu/wef\_world\_tourism\_2007.p

まとめ

北京オリンピックと観光との関連について述べてきたが、政治的にも経済的にも中国の繁栄と安定をアピールするため、開会日まで躍起となり、特にハード面の各種オリンピック施設関連の完成に邁進することが想定される。その結果、長年における筆者の中国および中国人との付き合い合いから言えば、「北京オリンピック二〇〇八」は大成功を納めるであろうと

表2 「2005年国際観光客・受入国ベスト10」および「世界観光ランキング」

No.	国名	観光競争力ランキング
1	スペイン	(12)
2	フランス	(15)
3	アメリカ	(5)
4	ドイツ	(71)
5	イタリア	(33)
6	中国	(10)
7	韓国	(49)
8	ロシア	(3)
9	日本	(52)
10	オーストラリア	(2)
31	日本	(25)

出所：世界観光機関UNWTO (2007年3月発表)